

平成6年11月25日号

剣道新聞 500号

全日本実業団剣道連盟は、本年一月、会長・林 規氏の急逝にともない、去る五月十六日、緊急在京理事会を開き、新しく関東地区の会長・中村龍夫氏を後任に迎えることに決め、早速、九月十五日、日本武道館において第三十七回全日本実業団剣道大会を開催した。

全国から参加した三百三十チーム（内六チーム欠場）、二千三百余の剣士、それぞれ十六パートに分かれて鏑をけずること延々八時間……、三回戦、四回戦、五回戦と六たびにわたる熱闘をくりぬけ、準々決勝の戦線に轡をそろえたのは、住友海上火災本店・NTT東京・東日本旅客鉄道・そごう横浜・フットワークエクスプレス本社・日本耐酸壘本社工場・住友海上火災神田・住友銀行東京の八チーム。

この八強で本年の王座をめぐり覇を競い、住友海上火災本店とフットワークエクスプレス本社との決戦となり、火花散る好試合を展開したすえ住友海上に初のがいかがあがった。住友海上は本年六月におこなわれた関東実業団剣道大会でも優勝しているのので、これで実業団の二大タイトルを手中にしたことになる。なお、最優秀選手には、優勝の原動力となった住友海上の中堅・山下忠典三段（23）が選ばれた。